第六条　事務所ハ許可ナクシテ工員間ニ組合ヲ設クル事ヲ業ズ
第七条　強制的ニ工員ヲ組合ニ加入セシムル事ヲ業止ス
第八条　工場ノ都合ニヨリ職員、工員ヲ雇入レ或ハ解雇スル際組合名義或ハ他ノ工員ノ干渉ヲ許サズ
第九条　甲ノ工員請負金額ニ不服ノ節乙ノ工員之ヲ受ケントスル際甲ノ工員又ハ組合名義ヲ以テ之ガ妨害ヲ許サズ又請負金額不調ノ節ハ常備賃金ヲ以テ誠意勤勉作業ニ従事スルモノトス
第十条　構内ニ於テ不穏ノ放歌又ハ喧噪ヲ業ス
第十一条　工場内ハ勿論其ノ他危険ト認メラルヽ場所ニ於テ焚火ヲ業ズ
第十二条　建家、障壁、建具、什器、機械、器具、製品及材料等ヲ破損セシモノハ之ヲ辨償セシムルコトアルベシ
第十三条　無届欠勤三日以上ニ亘ルモノハ任意退職者ト認メ降籍ス
第十四条　規則遠反者ヲ庇護又ハ煽動スル者ハ同一ノ行為ヲ為ス者ト見做ス
第十五条　第一条乃至第五条、第七条及第九条、乃至第十条ノ規則ニ遠反シタルモノハ一時間以上九時間以内ノ時給ヲ支払ハズ
第十六条　第六条、第八条、第十条、ニ遠反シタル者又ハ前条ニ該当スル行為ヲ繰リ返シタルモノハ一日以上ノ時給ヲ支払ハザルカ又ハ無条件ノ解職ヲ為ス可シ

附則

本規則実施ト仝時ニ旧来ノ慣習其他ノ制度ハ之ヲ廃止ス

以上

寫

証12 4 19
659号

勞秘甲第二四六號
大正十二年四月十四日

警視總監　赤池　濃

内務大臣水野錬太郎殿
社會局長官塚本清治殿
京都、大阪、神奈川、兵庫、
新潟、愛知、千葉、秋田、
各府縣知事殿
司法省刑事局長殿
東京控訴院検事長殿
東京地方裁判所検事正殿